

市総合体育館で「農業祭」と「住宅祭」を開催
秋の美りと多彩なイベントを満喫する

「第67回一関地方産業まつり農業祭」と「住宅祭」は10月29、30の両日、市内狐禅寺の市総合体育館（ユードーム）を会場に開かれ、大勢の市民らが多彩なイベントを満喫しました。

秋の一関を代表するイベントとして67回を数える農業祭では、一関産の農産物を販売するコーナー、はつとなど地元料理の飲食コーナーなどが軒を連ねました。来場者は、生産者と会話しながら、買い物や食事を楽しんでいました。ステージでは、「いわて純情むすめ」による地元の農産物が当たるクイズ大会や人気キャラクターショーなどを開催。親子連れなどが、ステージに声援を送っていました。

親子3人で訪れた大東町大原の金野裕治さん（38）は「ステージショーを見に来ました。地元の特産品や新鮮な野菜がそろっているのも魅力的です」と笑顔で話してくれました。

同会場では、地元ブランド牛「いわて南牛」をPRする「いわて南牛まつり」も同時開催。精肉販売のほか、いわて南牛のどんぶりや串焼きを販売し、自慢の味を買い物客にPRしました。

また、住宅祭は「次世代につなげる住まいづくり」をテーマに、同体育館のメインアリーナなどで開催。住宅関連企業が最新の設備機器などを展示し、大勢の家族連れでにぎわいました。会場には、バリアフリー体験や建設機械ふれあいコーナーなどを設置。来場者は、興味津々に展示品に見入ったり、体験コーナーを楽しんだりしていました。



1 農産物販売コーナーで、地元産の新鮮な野菜を品定めする買い物客 / 2 県南の農業女子が集まって出店した「Galuzu cRew」は野菜スープを提供 / 3 いわて南牛の精肉販売。売り上げも好調 / 4 建設機械ふれあいコーナーでショベルカー体験をする奥州市の桐山結心君（3つ） / 5 最新の設備機器などがずらりとならんだ住宅祭

「一関地方産業まつり商工祭」に多くの人出
市内や交流都市の特産品が一堂に会す

「第67回一関地方産業まつり商工祭」は10月22、23日の両日、一関文化センターとなのはなプラザを会場に行われました。会場では市内や交流都市の特産品、海産物、工芸品や各地の名物料理などが販売され、多くの家族連れなどが買い物、ステージイベントや体験コーナーを楽しみました。

山目の赤坂光さん（28）と弘葉ちゃん（2つ）はケーキ作りを体験して「ケーキ屋さんになったみたい」と喜んでいました。

なのはなプラザでは「全国お菓子まつりinいちのせき」も同時開催。21都道府県の30種類を超える菓子が販売され、午前中から売り切れる商品が出るなど大盛況でした。



皇太子さまがバスケットボール競技観戦
選手の勢いあるプレーに拍手送る

「第16回全国障害者スポーツ大会」（希望郷いわて大会）に合わせて本県を訪問していた皇太子さまは10月23日、市総合体育館（ユードーム）でバスケットボール競技を観戦されました。

皇太子さまは、県バスケットボール協会の藤原修専務理事の説明を受けながら岩手県女子の試合を約30分間観戦。選手たちの勢いのあるプレーに、にこやかな表情で拍手を送っていました。

皇太子さまは競技観戦後、平泉町の中尊寺金色堂や毛越寺も視察。同日夕方、2泊3日の日程を終え、JR一関駅から東北新幹線で帰京しました。

栗原市、登米市、一関市、平泉町4市町連携
登米市長が一関市役所で講演会を開催

宮城県登米市の布施孝尚市長による講演会は11月10日、市役所本庁で開かれ、受講した120人の本市職員は熱意あふれる講演に耳を傾けました。同講演会は、4市町連携の一環として、県境を越えた連携と相互理解を深めるために実施。昨年は、佐藤勇栗原市長が講演しました。

布施市長は、近隣自治体の年代構成を比較しながら「年代構成の違いで施策も変わる」と話し、各年代層にあわせた施策の必要性を示しました。また、4市町合同の婚活パーティーを例に挙げ「県境を越えた幅広い視点で取り組むことが大切」と広域での事業展開の必要性を訴えました。



全国障害者スポーツ大会出場の内3選手
いわて大会の金メダリストが喜びの報告

10月22日から24日に本県で開かれた2016希望郷いわて大会（全国障害者スポーツ大会）で金メダルに輝いた市内出身の3選手が11月11日、市役所を訪れ勝部修市長に受賞を報告しました。

訪れたのは水泳50m自由形と50mバタフライで2冠を達成した立谷大祐さん（40、大東町摺沢）、フライングディスクの伊藤強さん（64、真柴）、卓球の加藤佳弘さん（55、宮下町）の3人。

立谷さんは「地元の声援がありがたかった」、伊藤さんは「金メダルをとれてうれしい」、加藤さんは「2回目の出場で結果を出せてよかった」とそれぞれ振り返りました。勝部市長は「みなさんの活躍は市民を勇気づけた」とたたえました。

全盲のテノール歌手から中学生へ贈るメッセージ
新垣勉さんのおしゃべりコンサート

「中学2年生に贈る 新垣勉おしゃべりコンサート」（中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会主催）は11月8日、一関文化センターで行われました。市内の中学生1062人を含む1151人の観客が新垣さんののびやかな歌声と軽快なトークに聞き入っていました。新垣さんは「秋風の歌」や「さとうきび畑」などの曲目を披露。「皆さんには人の人生を良い方向に導く言葉を言える人になってほしい」と会場の中学生に呼びかけました。

小野彩花さん（千厩中2年）は「世界中があなたを待っているという言葉が心に残りました。これまでの困難を感じさせないきれいな歌声でした」と感動していました。



芦東山記念館開館10周年記念講演会に250人が参加
地域の偉人「芦東山」への認識を新たに

芦東山生誕320周年・芦東山記念館開館10周年記念講演会（市など主催）は11月5日、摺沢市民センターで開かれ約250人の来場者が大東町沢民地区出身の刑法思想の先駆者・芦東山に理解を深めました。

芦東山は江戸時代に日本の刑法思想の根本原理を論じた「無刑録」を完成させた偉人。講演会は「再発見・再評価-仙台藩儒芦東山と無刑録」と題し、早稲田大学の稲畑耕一郎教授ら国内外の7人が芦東山の思想や業績などの研究成果を、それぞれの視点から発表しました。稲畑教授は「情報発信を強化すれば、世界の芦東山になる」と展望を語りました。